

# テリドン近況

# ソフト開発でさらに応用広がる

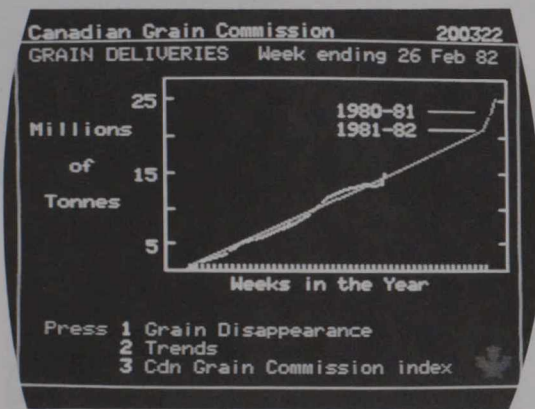
カナダ通信省が開発し、日本でも各地で利用されるようになった双方向文字図形情報システム(ビデオテックス)、テリドンは、端末機からデータベースを呼び出し、ショッピング、観光、催事、気象、スポーツといった自分の欲しい情報を文字や図形でテレビ画面に写し出すニューメディアである。情報検索だけでなく、ホームバンキングやホームショッピング、電子メールもできるし、双方向性を生かしてテレビ会議にも使えるという、きわめて応用範囲の広いシステムだ。

すでに本紙で紹介したように、カナダでは現在、たくさんの実用テリドン・サービスが稼動している。農家を対象にしたマニトバ州の「グラスルーツ」やトロントのタウンガイド「テレガイド」は、その代表的な例だ。そのほかにも教育分野に応用したTVオンタリオの「オンタリオ・テリドン・ネットワーク」(進路指導など)、ベル・カナダが中心となつて運用しているカナダ最大の一般向け実験サービス「ビスタ」(各種案内、ニュース、ゲーム、ホームショッピング)、株式情報を扱う全国ネットの「マーケットフックス」などが比較的よく利用されている。

カナダ通信省は一九八二年、アメリカの電話会社AT&Tなどと共同で技術水準を作成した。これがNAPLPSと呼ばれるもので、何回かの修正をへて、最近カナダ標準局(CSA)と米国標準局(ANSI)が公式にビデオテックスとテレテキストの北米標準と認定した。NAPLPSとなったことで、テリドンはアメリカでも利用が広がっている。

カナダでの最近の動向としては、パソコンとのドッキングがあげられる。テリドン端末(送受信・表示)や画像作成を、特別な装置でなく手持ちのパソコンでや

ってしまおうというのである。カナダのテリドン各社は、そのためのソフトウェアを競って開発してきた。パソコン利用が進めば、テリドン・サービスの利用者も提供者も、安価に手軽にテリドンを使用できるようになり、テリドン・システムの利用は大きく伸びる可能性が出てきた。



テリドン利用をめぐる最近の動きとしては、例えば次のようなものがあげられる。

## ●ホームバンキング

モントリオール銀行は、グラスルーツの加入者にホームバンキング・サービスの始めた。当面は預金の口座振替、残高調整、月間明細報告など数種の内容に限られているが、近い将来、請求書の支払いやクレジットカードの支払い、借入れ申し込みなどでもできるようになる。

加入者は自分の会員番号と暗証語をインプットして、二十四時間いつでも銀行が利用できる。

## ●パソコン利用

カナダのテリドン会社ではこのところ、パソコンをテリドン端末に利用したソフトウェアが相次いで開発されている。

典型的な例が、モントリオールのフォーム社。構内テリドンの双方向ディスプレイ・システムをパソコンで制御させることによって、システム価格を十分の一に下げることが成功した。同システムは、すでにオタワの議事堂に納入済みで、トロントのコンベンション・センターやハリファックスの「シーガイド」計画でも採用を検討している。

フォーミック社ではそのほか、ページ・クリエーション(画像作成)を手持ちのアップルやIBMのパソコンでできるようにしたソフト(価格は僅か数百ドル)や、一台のアップル・パソコンで同時に八台のテリドン端末を動かすソフトを売り出している。

フォーミック社のほかにも、マイクロツール社やテイソン・インフォメーション・テクノロジー社、リミコン社、マイクrostター社、アプコー社といったたくさんあるテリドン会社が、グラフィックス、ページ・クリエーション、双方向の業務用パッケージ・ソフトなどを提供している。これらを使えば、百貨店や商店街、図書館や公共機関などは従来よりずっと手軽にテリドン・システムを導入できることになる。